

シラバス

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位	対象	3年 普通・特進
----	----	----	----	-----	-----	----	----------

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>1. 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p> <p>2. 主題学習を通して客観的で公正なものを見方を育成するとともに、広い視野から思想を考察させる</p>
使用教科書・副教材等	「高等学校 倫理」(第一学習社)、「倫理ノート」(第一学習社)、「最新図説 倫理」(第一学習社)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい・目標	考查範囲
第1学期	1章 青年期の課題と自己形成 ①よく生きることを求めて ②青年期の課題 ③自己の探究 ④現代の青年期	4	<ul style="list-style-type: none"> 人間の特質とは何かを理解する。 自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考える。 青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自己形成につながることを理解する。 高校生の意識調査の結果を分析し、そこに現れている現代の高校生の特徴を読み取る。 自分自身の心に起こる状態を防衛機制の図にあてはめて考え、ねばり強く欲求を抑制し、調整しながら目標達成を図る必要性を理解する。 生きがいについていろいろな視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身につける。 	第1学期中間考查
	2章 人間としての自覚 ①ギリシャの思想 1-哲学の形成 2-ソクラテス 3-プラトン 4-アリストテレス 5-ヘレニズムの思想家たち 6-ギリシャの哲学と私たちの生き方	5	<ul style="list-style-type: none"> ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解することにより、古代ギリシャの思想は、私たちにとってどのような意味をもつのかを考える。 ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察する。 「ソクラテスのことば」から「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取る。 アリストテレスの現実主義の立場を、プラトンのイデア論と対比しながら理解する。 	
	②キリスト教 1-ユダヤ教 2-イエス 3-キリスト教の発展	6	<ul style="list-style-type: none"> 世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて、意欲的に考察する。 哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手がかりに、どのように生きていくべきかを学ぶ。 イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解する。 キリスト教信仰の構造に関心を持ち、キリスト教的な生き方や人間観の特徴を、興味をもって追究する。 キリスト教が愛の宗教であるといわれるのはなぜかを多角的・多面的に考察する。 聖書の文言を味わいながら、イエスの説く教えとはどのようなものであるかを学ぶ。 	第1学期期末考查
③イスラーム	6	<ul style="list-style-type: none"> イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解する。 メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義 		

		(六信・五行) を実感する。 ・『クルアーン』を読み、日常の生活で行うことまで規定していることを理解する。	第1学期期末考査	
④仏教 1－インドの思想文化 2－ゴータマの教説 3－仏教思想の展開	6	・インドの人々はどのような死生観をもっているかを理解する。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解する。 ・日本にもっともなじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察する。 ・「ゴータマのことば」を味わい、仏教の基本である、人間どうしが支えあいながら生きていくという視点を読み取る。 ・ゴータマが説いた縁起や四諦とは何かを理解する。		
⑤中国の思想 1－中国の思想文化 2－儒家の思想 3－道家の思想	7	・中国の人々の自然観・人生観を理解する。 ・陰陽五行や風水など、身近なものにも中国の思想とのかかわりがあることを知り、中国の思想に対する興味・関心を高める。 ・中国の思想は、歴史的に日本にもっとも大きな影響を与えたものであることを知り、私たちの現在や未来にどのようなかかわっているのかを考察する。 ・『論語』のなかの孔子のことばから、中国の思想の根本を読み取る。 ・西洋と東洋の源流にある思想を比較して、人間の生き方について説いている内容の共通点と相違点を調べ、発表や討論をする。		
【課題・提出物等】 レポート、ワークノート、課題プリント 【第1学期の評価方法】 考査評価、倫理ノート、課題追究学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価				
第2学期	3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統	9	・日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考える。 ・書籍や聞き取り調査などから日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識をもっていたのかを理解する。	第2学期中間考査
	②外来思想の受容 1－日本仏教の展開 2－日本儒学の展開 ③町人意識の目覚めと庶民思想	9	・日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを把握する。 ・法然、親鸞、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解する。 ・日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をとともに検討する。	
	④西洋思想との出会い 1－幕末の思想 2－明治の啓蒙思想 3－日本社会とキリスト教 4－社会思想の展開 5－近代的自我の確立 6－近代日本の思想課題	10	・幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたかを把握する。 ・日本の近代思想がどのように展開していったかを理解する。 ・日本人のものの見方・考え方のなかで、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方をまとめる。 ・日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲を高め、今後の生き方について考える。	

<p>4章 現代に生きる人間の倫理</p> <p>①現代の特質と倫理的課題</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、環境、家族、情報、国際化などに関する問題を概観し、私たちが取り組むべき倫理的課題について、主体的に考えるためのきっかけ作りとする。 ・これらの課題が自分の生活にどのようにかかわっているかを理解し、個々の課題について追究していくための問題意識を明確にする。 	
<p>②人間の尊厳</p> <p>1ールネサンスと宗教改革</p> <p>2ー人間性の探究</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳にかかわる思想家の思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。 ・先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。 	第2学期期末考査
<p>③近代の科学革命と自然観</p> <p>1ー近代の科学革命</p> <p>2ー経験論と合理論</p> <p>3ー自然観の転換</p>	11	<ul style="list-style-type: none"> ・近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。 ・ベーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し、科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。 ・ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観をつかむ。 ・経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて理解する。 	
<p>④自由で平等な社会の実現</p> <p>1ー社会契約の思想</p> <p>2ー人格の尊厳と自由——カント</p> <p>3ー人倫と自由の実現——ヘーゲル</p> <p>4ー功利主義の思想</p>	11	<ul style="list-style-type: none"> ・近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察する。 ・ホブズ、ロック、ルソーに関する資料を収集し、社会契約の思想の違いを整理する。 ・現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解する。 ・カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。 ・西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多角的・多面的に考察する。 ・ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。 ・功利主義の思想からよく生きるとはどういうことかを理解し、自分自身の生き方につなげる。 	
<p>⑤人間性の回復と主体性の確立</p> <p>1ー社会主義の思想</p> <p>2ー実存主義の思想</p> <p>3ープラグマティズムの思想</p>	12	<ul style="list-style-type: none"> ・社会主義の生まれた背景とその発展過程、現代の社会主義について考察する。 ・実存主義が追究した生き方とはどのようなものか理解する ・主体的なあり方は、努力をともなう生き方であることを、実存主義の思想から考察する。 ・略伝や図版を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を理解する。 	
<p>【課題・提出物等】</p> <p>1学期に準ずる</p> <p>【第2学期の評価方法】</p> <p>1学期に準ずる</p>			
<p>第3学期</p> <p>⑥現代の思想と人間像</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・前節までの学習を踏まえ、現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察する。 ・フロイトやレヴィ・ストロースらの著作を読み、現代の思想が発見したり注目したりしてきたものは何かを理解する。 ・ロールズやセンの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげる。 	学年末考査

